

「教職専門としての総合的学習・探究の時間の指導法」の課題と可能性を求めて
—静岡県立大学での実践をモデルに—
概 要

本稿は、2022年度から3年間、静岡県立大学食品栄養科学部の非常勤講師として、教職専門科目の「総合学習の時間」（栄養生命科学科 栄養教諭免許取得希望）と「総合的な学習の時間の指導法」（食品栄養科学科、環境生命科学科 高校理科教諭免許取得希望）を担当した経験をもとに、特に2023年度の学生と講師による活動実践の記録を次の3種の視座から考察した結果の報告文である。

1. 小中高の全教科免許取得必修の「総合的な学習の時間の指導法」と栄養教諭と養護教諭の免許取得に必要な「道徳、特別活動及び総合的な学習に関する内容」を重ねた教職専門科目としての教育方法を構成する「教師・教科書・教室・時間割」を転換することにより、小中学校の「総合的な学習の時間」と高等学校の「総合的な探求の時間」の実践を本来の目的を志向する教育実践に転換するための方法と課題を受講者がチーム単位の活動によって見出す契機を実証的に開示する。

2. 小中「総合的な学習の時間」と高校「総合的な探求の時間」の「目標を実現するにふさわしい探究課題」として学習指導要領に記載された「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」に注目し、次の三段階のチーム活動を進める。

①「現代的課題」と総称される社会事象を「多様性」「多元性」「可変性」という三種の観点から問い直す必要性を実証的に理解するための調査探求のテーマをチーム別に構築する。

②総合的な学習（共有化）から探求（個人化）へと進行する学習目標の変化に応じる調査探求の内容と方法を新たに構築するチーム別活動の過程において、“情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機（最先端分野で活躍する特別講師招聘）を準備することで、一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化を経験的に内在化する。

③上記2種の段階の過程と成果をPowerPointにまとめてチーム間でのプレゼンテーションを実施し、相互評価の繰り返しによって、チーム別調査探求成果の共有化と個別化・個人化の視座から現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することを試みる。

3. 小中高の学習指導要領の「総合的な学習・探究の時間」の目標と内容の記述様式が、7度の改訂によって学習指導要領が構築した日本の公教育システムの中核を構成する教科書検定システムの外側に置かれていることを、上記教育実践（“教師・教科書・教室・時間”転換装置の設置）の分析・考察により実証的に明記する。そして、現代的課題の恒常化を避けない日常生活を構成する社会的システムの中核に現在の公立学校システムをおくことの機能的合理性への問いを提起する。

概要（要約版）

本稿は、2023年度の静岡県立大学の教職専門科目（「総合学習の時間」と「総合的な学習の時間の指導法」）の活動実践の記録である。次の3種の視座から考察した。

1 「教師・教科書・教室・時間割」を転換することにより、受講者がチーム単位の活動によって見出す契機を実証的に開示する。

2 学習指導要領に記載された「現代的な諸課題」に対応する横断的・総合的な課題に注目し、次の三段階のチーム活動を進める。

①「現代的課題」を「多様性」「多元性」「可変性」という三種の観点から問い直す必要性を理解させる。それをグループ別に構築する。

② 最先端分野で活躍する特別講師招聘を準備することで、一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化を経験的に内在化させる。

③ 上記2種の段階の過程と成果をPowerPointにまとめてチーム間でのプレゼンテーションを実施し、相互評価の繰り返しによって、チーム別調査探求成果の共有化と個別化・個人化の視座から現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することを試みる。

3 学習指導要領が、教科書検定システムの外側に置かれていることを、上記教育実践の分析・考察により実証的に明記する。そして、日常生活を構成する社会的システムの中核に現在の公立学校システムをおくことの機能的合理性への問いを提起する。